

シャープゲンゴロウモドキ コウチュウ目ゲンゴロウ科

Dytiscus sharpi Wehncke

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

1962年の本県の記録を最後に絶滅したと考えられていたが、1984年に千葉県で再発見された。近年、全国的に生息地、個体数とも激減しており、生息地が全国で最も多い本県でも、ここ10年で半減した。

形態

体長28～33mm。体型は長卵型で厚みは少ない。背面は緑～黒褐色で、頭楯、触角、前胸背板、上翅側縁は黄褐色。体下面は暗赤褐色で一部は黒色。幼虫は最大55mmのいも虫状。

国内分布

千葉県、新潟県、佐渡島、富山県、石川県、福井県、滋賀県、島根県。

県内分布

金沢市～奥能登の平野部～丘陵地に分布する。

生態

成虫は10月頃より交尾を開始し、4月頃にセリやガマなどの茎に数十個の卵を産む。幼虫は4～5月に出現し、ミズムシや両生類幼生を捕食する。3齢幼虫は5～6月に岸辺の土中で蛹化する。新成虫は6～7月に出現し、夏～秋に移動・分散し、水中で越冬する。成虫は約600mは飛翔する。夜間に活動し、昼は水草の根元や泥に潜る。夏の高湿時にも泥に潜る。寿命は1～3年。

生息地の条件

湧水や沢水が流入する泥深い湿地、ため池、放棄水田、水田脇の水たまりに生息する。水質が良好であることが重要。

生存の危機

池沼の開発、圃場整備、放棄水田の植生遷移、外来動物の侵入、過剰な採集圧によって危機に瀕している。過去に能登空港建設とそれに伴う周辺の圃場整備、LPガス基地建設によって、多くの生息地が消滅した。谷津田の放棄水田の湛水化などによる水辺ネットワークの維持が重要であり、一部で開始されている。(A, B, C)

特記事項

氷河期の遺存種として生物地理学的に重要である。石川県指定希少野生動物植物種(2005年)に指定されている。金沢市では生息地の地元集落と環境保全協定を結んでいる。

参考文献

西原昇吾・苅部治紀・鷺谷いつみ 2006. 水田に生息するゲンゴロウ類の現状と保全. 保全生態学研究, 11(2): 143-157.



写真提供者: 富沢章

分布図はありません。

県内の分布